

2008年(平成20年)年頭にあたって
病院長 仙賀 裕

はじめに

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年、当院における心臓カテーテル検査・治療時のC型肝炎の感染につきましては、あらためて発症した患者さんやそのご家族、市民の皆さんに心よりお詫び申し上げます。今回のことを深く反省し、再発防止に最善を尽くしてまいります。

年頭にあたり、今年の病院運営について概略を述べたいと思います。

1 院外処方についての対応

急性期病院として、入院患者さんに関わる病棟薬剤業務を充実させるため、4月から院外処方を全面実施します。

昨年10月から、外来やパンフレット等で患者さん、市民の皆さんに説明して参りました。院外処方開始時に、多少の混乱を生じることがあるかと思いますが、ご協力をお願いします。

2 DPCについての対応

DPCとは、急性期入院医療に係る診断群分類別包括評価のことです。昨年も述べましたが、簡単に言うと入院患者の医療費が1日あたり定額(一部を除く)で算定される支払い方式のことです。DPCを導入すると、クリニカルパス(一定の疾患や疾病毎に、患者さんに対して多職種連携により提供される医療をスケジュール表のかた

ちにまとめたもの)等を積極的に併用し、治療を計画的に行うことにより、入院期間の短縮と適正化が図られ、患者さんの負担が軽減することになります。

現在、当院はDPC準備病院ですが、DPC適用病院として認められるよう今年も取り組んで行きます。

3 診療報酬改定への対応

診療報酬は2年ごとに改定され、今年がその年にあたります。今年の改定の詳細はまだ明らかにされていませんが、産科・小児科・救急医療等の実情に照らし、勤務医対策を重点課題として行うとされています。また、前回の改定で必要なリハビリが制限された問題のように、あらたに始まる後期高齢者医療などの変化が待ち受けていますが、急性期医療を担う病院として対応して行きたいと思います。

4 がん治療への対応

昨年11月「日本がん治療認定医機構」から、当院は認定研修施設に認可され、同時に、5人の医師ががん治療の暫定教育医としての認定を受けました。今後は、認定医を取得出来るよう教育・治療体制を充実させていきたいと思ひます。

また、昨年4月に放射線治療を開始し、現在多くのがん患者さんの治療を行っています。そして、外来化学療法室も同時期に開設しました。昨年は、がん治療の三本柱である手術、化学療法、放射線治療のすべてが当院で可能

となり、市民、患者さんのニーズに応えられるようになって来たと思います。今年、更にがん治療の充実を図るため、放射線治療医の常勤化等について努力していきます。

5 救急医療体制への対応

専任の救急医療部長を中心に市民が安心して暮らせるよう、二次救急を中心とした救急医療体制を充実させてきました。消防機関との連携もよくなってきており、その結果、当院への救急搬送率は、市内の40%近くを占めるまでに上昇して来ました。

また、本年4月より、検査・放射線・薬剤部門を当直体制から交替制へ移行し、職員の勤務体制も充実します。今年、南側の地区を含め、茅ヶ崎市全体の救急医療体制を考えなければならない年のようなようです。当院はそれに積極的に対応して行きたいと思っております。

6 勤務医、看護師不足への対応

神奈川県内でも勤務医、看護師不足は深刻な問題になっています。医師は一つの診療科が抜けると連鎖的に他の診療科にも影響し、看護師は大規模病院に就職を希望する傾向にあります。医師だけでなく、看護師の確保が困難になった病院も見受けられます。

幸い、当院ではそのような事態にはなっていませんが、市民、患者の皆さんに安心していただけるよう、職員の確保は、病院長の責務として今年も果たして行きたいと思っております。

7 臨床研修医制度への対応

今年、4月から新卒6人の研修医を採用し、昨年の4人と合わせ、10

人の研修医が院内で働きます。良質な医療を提供できる医師を育てるため、更に研修内容を充実させていきます。また、研修終了した医師のために後期プログラムを充実させ、指導・育成した結果、1人の医師が当院で後期研修医として働いています。今後も当院に勤務する医師を当院で育てて行けるよう取り組んでまいります。

8 市民の健康管理への対応

昨年開始した隔週土曜日の市民なんでも健康相談と毎月一回の出張出前講座は、好評を頂いております。今年も継続の予定です。昨年4月から2回開始した土曜日の人間ドックについては希望者の人数も考慮し、4月以降続けるかどうか検討しています。

また、4月から始まる特定検診については、医師会と協議しながら当院も積極的に参加し、市民の健康に携わって行きます。

9 安全管理への対応

安全で信頼される医療を提供するために、専従のリスクマネージャーを配置し、医療安全管理委員会を中心に全職員が常にリスクマネジメントの考え方を念頭に置き、医療事故防止に努めてきましたが、まだ十分ではありません。今年、安全のための研修を更に充実させ、安全安心の医療の提供を行って行きます。

おわりに

一人ひとりの患者さんに、安全・安心で良質の医療の提供が充実できるように更に取り組んで参ります。当院にご理解とご支援を宜しく願います。